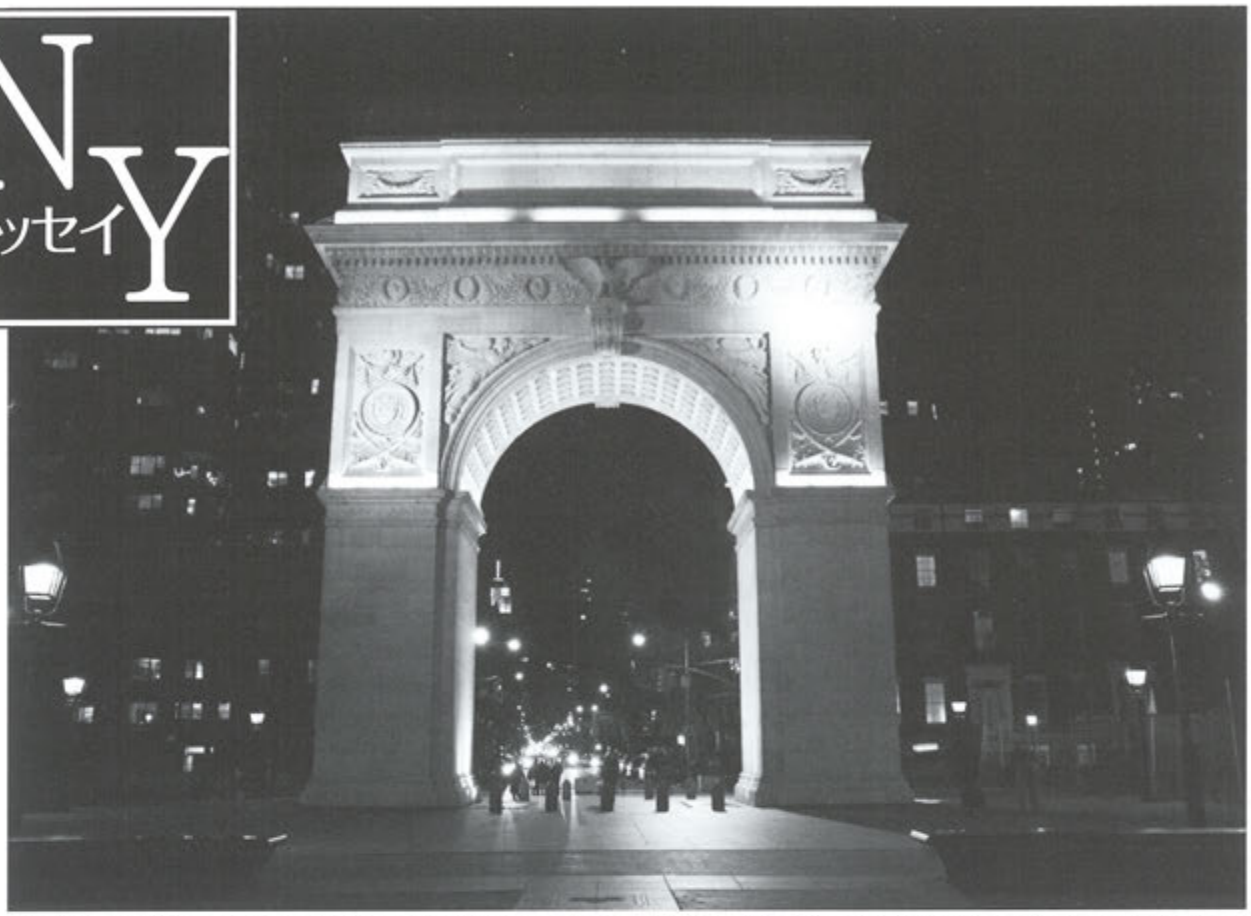
NY エッセイ

中瀬有紀



The Washington Square Arch on the Washington Square Park's northern edge at 5th Avenue：五番街の先に見えるのはエンパイア・ステート・ビルディング

季節の変わり目に明かりの変化を考える

「今年の冬は積雪が多かったけれど、昨年よりも暖かかったね」と、照明デザイナー仲間が言いました。私も同感でしたが、National Oceanic and Atmospheric Administration's National Weather Service（http://www.weather.gov/）のデータによると、今年は暖冬ではありません。それでもそう感じるのは1月と2月の気温差によるものでした。今年1月の最低気温零下14℃という極寒に慣れたニューヨーカー達は、2月の暖かい春めいた陽気をもって「今年の冬は暖かかった」というのです。

人間の感覚は曖昧であり、同時に優れた適応能力を持ち合わせています。そして、照明デザインは人間の目の曖昧さと適応能力を存分に利用した芸術です。バイオレット色の演出を加えたキューの後で見るノンカラー3200Kの電球色が緑色に感じるのは、その適応能力が照明デザインを興味深くしている例です。照明デザインはキューの完成度だけではなく、キュー間の変化がキューの印象を決めます。

そして、キュー間の変化を非常に大切にしている調光卓がETC社の"Eos Family"です。現在アメリカの照明デザイン業界においてはETC社の照明卓がシェアのほとんどを占め、プレビュー公演が行われているブロードウェイミュージカル『SPIDER-MAN Turn Off The Dark』の一般照明がEosで操作されているように、"Eos Family"は一般照明とムービングライト両方の操作卓としてよく見かけます。初期設定でTrackモードかCue Onlyモードのどちらかを選択できますが、アメリカでは多くの利用者がTrackモードを選択しています。その場合、キューを修正する際にCue Onlyを設定しない限り、Updateしたチャンネルの調光レベルはその後に続くキューに影響します。

Trackモードが好まれる理由のひとつは、ショーが明かりの変化に重点を置いてデザインされている為です。どの明かりが、どのように変化するか。アメリカでは、キューアイデアの記録と保管にトラッキングシートと呼ばれる資料が利用されます。ひとつのキューにつき、そのキューの調光レベルだけではなくワンステップ前のキューの調光レベルと、キューの完結に要する時間も記入します。曖昧な人間の感覚と上手に付き合い、優れた人間の目の適応能力を味方にする鍵は、Trackモードとトラッキングシートに隠されています。